

科目名 (科目番号)	物理療法学実習 (A:062153/B:062163)	教員名 深谷隆史	学科等	理学療法	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割参照		単位数	1
			オフィスアワー		火・3	A310研究室	
授業概要	物理療法学で学習したことを基礎として、適切な物理療法手段を選択できることを目標とする。各種物理療法機器を被験者の安全に配慮して正しく操作できるように温熱療法・寒冷療法・光線療法・電気刺激療法・牽引療法など各種物理療法に関して、1. 学生グループ内で治療者と患者の役を演じ、実習を行う。2. 各種測定機器を用いて、生体に起こる反応を測定し、物理療法の効果を定量的に判定する。						
準備学習	各種物理療法機器の使用方法・特性・適応・禁忌について予習を行うこと。						
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標				
	1	実習1	学習内容:頸椎牽引機器を使用し得られた結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	2	実習2	学習内容:腰椎牽引機器を使用し得られた結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	3	実習3	学習内容:超音波機器を使用し得られた結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	4	実習4	学習内容:極超短波機器を使用し得られた結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	5	実習5	学習内容:寒冷療法を行った結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	6	実習6	学習内容:温熱療法を行った結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	7	実習7	学習内容:電気刺激療法を行った結果から、効果判定を行う。 到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と関連付けた模擬治療計画を立案することができる。				
	8	総合・まとめ	学習内容:各種物理療法機器を安全に配慮して操作することができることを確認する。 到達目標:各種物理療法機器の取り扱いについて、患者を想定した場合、適応となる物理療法を選択することができる				
	成績評価の方法・基準	レポート(70%) + 授業内に行う小テスト(30%)					
教科書	物理療法学 第2版		松澤正 江口勝彦 監修			金原出版	
参考図書	理学療法学テキストIX 物理療法 第2版 物理療法学テキスト 改訂第2版		千住 秀明 監修 細田 多穂 監修			神陵文庫 南江堂	
教員からのメッセージ	必要に応じてこの授業の内容を変更することがあります。物理療法機器は取り扱いを誤ると熱傷や凍傷など身体を損傷します。臨床現場に真剣に臨む態度で 実習してください。						